

# 言葉は生きもの

国語班：小川 拓馬 松井 彰汰  
角 健伍 畑中 悠 萩 太

## 1. はじめに

私たちは普段生活をしていて、映画やドラマなどで使われている大阪弁に違和感を持った。そこで、「私たちが普段使っている大阪弁は私たちが行ったことのない大阪の地域でも同じように使われているのか？使われていないのならどのような変化があるのか？」また、「“生きもの“のように生態系、種、遺伝子的な多様性はみられるのか？」について調べてみることにした。

## 2. 実験方法

高津高校文理学科1・2年生に以下の2つの質問についてのアンケート調査を行った。

(質問1)

映画やドラマなどで使われている大阪弁に違和感を持ったことがありますか？

「はい」と答えた場合はその言葉とその言葉の違和感を持った点を教えてください。

〈選択肢：①イントネーション ②アクセント ③言葉自体 ④その他〉

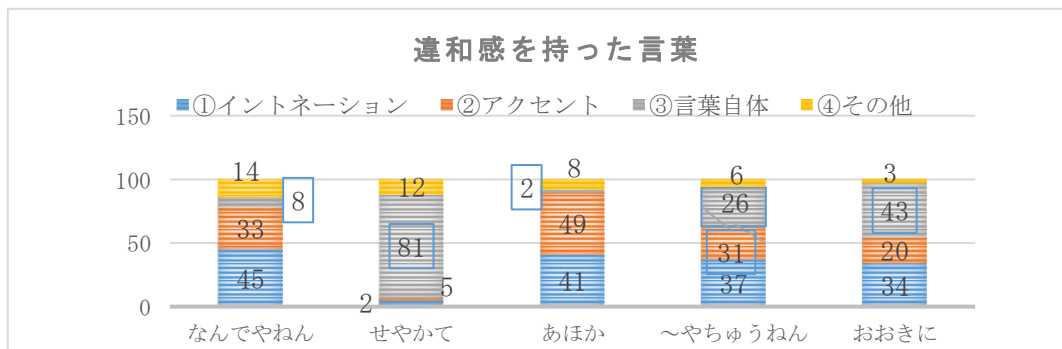
(質問2)

『今日、ご飯一緒に食べに行かない？』を普段使っている言葉に直してください。

## 3. 結果

(質問1)

アンケート対象者の93%が違和感を持っていると答えた。また、「なんでやねん」は①②の選択肢つまり音に関する違和感が多く、「せやかて」「～やさかい」は選択肢③の言葉自体違和感を持つことが分かった。

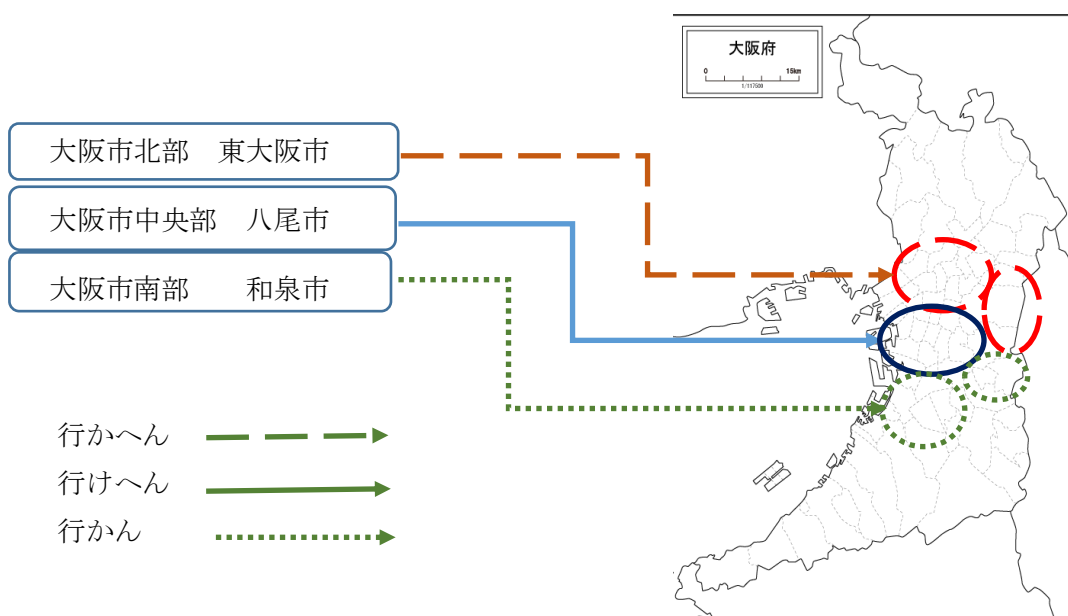


(質問2)

大阪市北部、東大阪市には『行かへん』、大阪市中心部、八尾市には『行かん』、大阪市南部、和泉市には『行けへん』が多く分布していた。予想の『行かへん』と『行けへん』の二分化にならず、この両方のニュアンスが交じり合った『行かん』が現れたと考えられる。

…行かへん、行けへん、行かん

という誘い方が多かった地域を大体でまとめると、



#### 4. 考察

映画やドラマの大阪弁に違和感を持つ人は多いが、違和感を持つポイントは言葉によってちがいがあるといことが分かった。その変化は住んでいる地域(生態系)によって変化があり、生態系の多様性がみられた。また、語尾に変化が生まれ、多くの種類が大阪弁にはあり、種の多様性がみられる。大阪弁は地域によって昔から伝えられたものなので遺伝子的多様性がみられる。

つまり、生態系の多様性、種の多様性、遺伝子的多様性という共通点があるということが分かり、この研究から日本語は生きものということが言える。

#### 5. 参考文献

大阪ことば事典 (講談社学術文庫) (1984) 牧村 史陽